

SUPPORT

【世界運河会議 NAGOYA2020 ご協賛及びご寄付企業】

Rinnai

岡谷鋼機

中部電力

大林組

TOHO GAS

NTCコンサルタンツ

TOKURA

清水建設

株式会社 三祐コンサルタンツ

前田建設

大成建設
For a Lively World

NPO法人新都市活動法人
Yellow Angel

名港海運

愛知地域建設コンサルタンツ協会 株式会社竹中工務店 鹿島建設株式会社

アサヒビル株式会社 戸田建設株式会社 株式会社熊谷組

愛知ドビー株式会社 富士コーヒー株式会社

世界運河会議NAGOYA2020実行委員会
<https://icf-nagoya.jp>
tel:050-3709-0706
【中川運河キャナルアート】

INTERNATIONAL
CANAL FORUM
NAGOYA 2020

世界運河会議
NAGOYA 2020

2021 5.21 FRI. - 23 SUN.

オンライン開催

主催／世界運河会議NAGOYA2020実行委員会
共催／名古屋市 名古屋港管理組合 (公財)名古屋まちづくり公社名古屋都市センター (一社)日本プロジェクト産業協議会 (一社)中川運河キャナルアート
協力／国土交通省中部地方整備局 國際連合地域開発センター 特定非営利活動法人伊勢湾フォーラム
後援／名古屋商工会議所 (一社)中部経済連合会 中部国際空港(株) (公社)土木学会

世界運河会議NAGOYA2020 開催

この水辺から
つながる
広がる

いよいよ世界運河会議NAGOYA2020が開催される運びとなりました。苦しみ、苛立ちを覚えた一年でしたが、同時に学ぶこともあったと思います。

人口や資本の密度が高いことは都市であることの条件ですが、そのような都市において運河などの水辺は私たちに距離を、そして潤いをもたらしてくれるものであることに改めて気づかされました。オンラインミーティングの環境が急速に整いました。しかし、画面越しでのやりとりに窮屈さがあることは否めず、間合いの取り方、ボディランゲージの大しさ、さらには会議の意味あるいは無意味を再認識しました。そして大事なこと、込み入ったことは実際に会って話したい、もっと言えば会いたいという気持ちがどれだけ大きいか、大きければ足を運んで移動したい、と考えることの意味にも気づかされました。

運河はもともと物品を移動させるためだけの土木施設でした。時代とともに役割は変わってきました。見え方も違ってきました。汚くても、人の気配がなくても、都市に貴重な水面です。独特な空間です。手を加える甲斐があります。世界の都市を見渡せば、運河が新たな魅力を発信する可能性を持っていることは明らかです。魅力ある運河はそれぞれに個性を放っています。そこには必ず人がいます。アイデアとパワーを持っています。刺激的なやりとりがあって面白い空間になっていくようです。

世界運河会議は、運河が持つ多様な価値に気づく場となるでしょう。たとえオンラインであっても意義深い場となることでしょう。3日間のうちには新しい発見、気づきもあるかもしれません。これまでにないひとときを少しでも多くの方々とシェアできればと思います。

世界運河会議NAGOYA2020実行委員会
企画委員長 秀島栄三(名古屋工業大学 教授)

CONTENTS

- 04 ご挨拶
- 06 中川運河の歴史
- 08 5月21日 基調講演・オープニングディスカッション
- 11 5月22日 session1-3
- 14 5月23日 session4・5「NAGOYA Model」の提唱
- 16 タイムテーブル
- 17 登壇者紹介・運営組織
- 24 SUPPORT 世界運河会議NAGOYA2020ご協賛およびご寄付企業

ご挨拶



名誉実行委員長
水野明久
中部電力株式会社相談役



実行委員長
奥野信宏
公益財団法人名古屋まちづくり公社上席顧問
名古屋都市センター長

「運河」は、古くから物流や治水など多方面に大きな役割を果たしてきました。この名古屋においても、中川運河が昭和7年に全線供用され、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅を結ぶ水運機能および市中心部の治水機能を受け持つ施設として、名古屋の経済・産業の発展および市民の生活を支えてきました。その後、昭和40年代からの道路網の充実などによるトラック輸送へのシフトにより、中川運河の役割は縮小しましたが、平成24年に名古屋市および名古屋港管理組合において、概ね20年先を見据えた「中川運河再生計画」が策定され、中川運河の水辺に交流・創造の場の創出や歴史まちづくりの展開など、新たな息吹を注ぎ、次の世代に継承していく計画が示されました。今や水辺を活かした魅力あるまちづくりは、世界的な一大潮流になっています。このたび、地元の自治体や企業・経済界からご支援をいただき、「世界運河会議NAGOYA2020」を開催する運びとなりました。会議では、中川運河をはじめとする名古屋の水辺に感動と憩いの空間を創出することを目指し、国内外から水辺を活かしたまちづくりに様々な経験、知見を持った方々をお招きし、先進事例を学ぶ中でこれからの中川運河を徹底的に議論してまいります。中川運河などの水辺空間整備を通じて名古屋が、世界に誇れるより豊かで、より潤いある都市へと発展することができるよう、今回の世界運河会議を通じてその気運を盛り上げるべく様々な企画を用意しております。世界運河会議へのより多くのみなさまのご参加をお願い申し上げます。

中川運河は昭和初期から港と都心を結ぶ水上輸送路として活用され、高度成長期には名古屋の産業展開を担う大動脈だった。物流輸送の主力が船舶からトラックに移ると役割は急速に縮小したが、運河の広大な水面が共有の産業遺産として後世の市民に託された。

名古屋圏は、政府の計画で「世界最強・最先端のものづくり圏域」「ものづくりの研究開発の世界的拠点」と位置づけられているが、ここに至るまでの名古屋圏の発展は、中川運河を抜きにしては語れない。

政府が推進しているスーパーMガリージョン構想はリニア中央新幹線で三大都市圏を結び、スピードで集積の利益を追求して日本の成長のセンターにするという構想だが、名古屋はその心臓部に位置する。

名古屋駅の鉄道による2時間圏人口は、新大阪の2倍、品川とほぼ同じ規模になり、ビジネスや観光等での将来の可能性は高い。

中川運河は名駅エリアの新たな観光資源である。

中川運河は市民の憩いの場としての期待も高い。

2017年に港とささしまライブを結ぶ水上交通「クルーズ名古屋」の運航が中川運河で開始された。大都市の中心部に広がる広大な水辺空間や、名古屋港との潮の干満差による水位を調節する中川口通船門などは観光資源として貴重だろう。

また戦後すぐの時期には国民体育大会のボート競技の会場として使用されたそうだが、圧迫感のない水辺は憩いの場として市民に親しまれるだろう。

中川運河は、民間と行政が共同で護り育てて現在に至っている。世界運河会議は市民が中心となった活動を経済界と行政が支援して実施される。中川運河の現代における意義が市民に再認識され、また国内・海外に情報発信されるまたとない機会である。

中川運河の歴史

中川運河

物流の運河から、人々が集う創造の水辺へ

名古屋の南西部を南北に貫く中川運河。名古屋港と都心・さしまライブ(旧国鉄笹島貨物駅)を結ぶ総延長8.2kmの大運河です。着工は1926年。名古屋市の人口が100万人を突破し、工業都市へとますます発展しようとする時代でした。1932年に全線開通。そのスケールの大きさから「東洋一の大運河」と言われた中川運河は以降、水上輸送を担う物流の大動脈として、名古屋の近代化を支えました。沖合の大型船から鉱石や綿花などの荷を受け取った船が、運河沿いの倉庫で荷を降ろしたり、貨車に積み替えるために国鉄笹島の貨物駅へ運んだり。そして再び陶磁器などの輸出品を積んで、港へ。どれほどどの船が中川運河を行き交ったことでしょう。しかし輸送形態が鉄道貨物からトラックへと変わると、中川運河の水運利用は徐々に減少し、人々の記憶から忘れ去られていきました。

中川運河の秘めたる可能性に気づいた市民によって「中川運河キャナルアート」が結成されたのは2010年。運河周辺をコスマスで埋め尽くそうと、毎年、地域の人々とともに行うコスマスプロジェクトや、アートイベント、シンポジウム・キャナルアートミーティングの開催など精力的に活動を開始。それは中川運河への気づきを促し、人々の意識を少しずつ変えていくこととなりました。

こうした動きのなか、2012年、名古屋市と名古屋港管理組合は「中川運河再生計画」を策定しました。再生理念に「歴史をつなぎ、未来を創る運河～名古屋を支えた水辺に新たな息吹を～」を掲げ、中川運河に新たな価値と役割を見出すべく、20年先を見据えた運河再生構想と、おおむね10年の取り組みについてゾーン別の再生イメージを提示。民間の活力やノウハウも積極的に活用しながら「うるおい」「憩い」「にぎわい」をもたらす運河への再生が動き始めました。

一方、中川運河の船溜まりの北側にあった旧国鉄笹島貨物駅は、先進的な都市空間の活用に向けて「さしまライブ24」地区の土地区画整理事業をはじめ、再開発が進み、2017年10月、グローバルゲートの全面開業で「まちびらき」し、大学、オフィスやホテル、商業施設が建ち並ぶ名古屋駅周辺の新しい顔となりました。その一角の中川運河堀止には緑地が整備され、かつて水路と陸路の中継地点として物資が行き交った場所は、今、再び都心の貴重な水辺として、憩いとうるおいさらに、にぎわいをつくり出しています。

法人化した中川運河キャナルアートは、「水辺を中心としたクリエイティブなまちづくり」を掲げて、ますますその活動を広げていきました。毎年開催するキャナルアートミーティングや、水辺

でのライブパフォーマンス、ミズベリングNAGOYAの開催…。そこにはいつも地域の人たちやアーティスト、地元企業の応援がありました。

こうした市民の動きを背景に、名古屋都市センターも中川運河を舞台にした市民交流や創作活動を積極的に支援する「中川運河再生文化芸術活動助成事業(愛称ARToC10=アートックテン)」を2013年から開始、これは中川運河再生計画に賛同したリンナイ(株)(本社・名古屋市中川区)の寄付が活用されています。

中川運河再生計画で「にぎわいゾーン」とされた域内には、運河の眺めを楽しめるカフェやショップが進出(珈琲元年、バーミキュラ ビレッジ)。また運河沿いに建つ岡谷鋼機(株)の物流倉庫は、老朽化による建替えに際して、竣工当時の昭和初期の外観を再現。歴史ある景観を維持してほしいという地元の要望にこたえました。水面に映る山形の屋根と白壁の倉庫は、中川運河ならではの風景として親しまれています。

忘れられていた運河は、一歩ずつ、力強く、再生への道を歩んでいます。中川運河をどう活かし、どう名古屋の魅力としていくのか。名古屋の力が、ますます問われています。



メインプログラム

多彩なゲストが、世界の、日本の水辺を語ります。

5月21日(金)

●オープニング 挨拶 | 遠藤和重 国際連合地域開発センター 所長



1988年京都大学工学部卒、同大学大学院修士課程修了(工学修士)、米国ネブラスカ州立大学大学院(地域計画学修士)。1990年に国土交通省(旧建設省)に入省以来、九州地方整備局鹿児島国土事務所長、国土技術政策研究所情報基盤研究室長、世界銀行アフリカ局運輸交通グループ上級道路技術者、復興庁岩手復興局次長等を歴任。2018年8月より現職。

時間 → 10:00-10:15

同時通訳 → 日・英

●オープニング 主旨説明 | 秀島栄三 企画委員長 名古屋工業大学教授



時間 → 10:15-10:45

同時通訳 → 日・英

●基調講演 | カイ・ウーヴェ・バーグマン BIG (BJARKE INGELS GROUP) パートナー



KAI-UWE BERGMANN

BIGパートナー(共同経営者)。米国建築家協会フェロー(FAIA)。北米、ヨーロッパ、アジア、中東など世界中でBIGのビジネス領域を展開。また都市計画的なプロジェクトやランドスケープなども統括。最近ではNYマンハッタンのBIG-U計画を担当している。本プロジェクトは2020年の第一期(約4km)の着工予定である。またブルックリンクイーンズパーク、スミソニアンマスター・プラン、マイアミビーチスクエアなど多数のプロジェクトを統括している。

講演内容 → 世界的建築設計会社であるBIGのさまざまなプロジェクトに触れながら、NYマンハッタンのBIG-U計画について、その野心的なデザインや住民とのワークショップなど、水辺デザイン最前線を紹介。世界運河会議NAGOYA 2020の主要テーマであるNAGOYA Modelについて、そのヒントをNYから語っていただきます。

時間 → 11:00-12:00

同時通訳 → 日・英

5月21日(金)

●オープニングディスカッション1

水辺のコスモロジー アート・意識・未来

コロナ禍で大きく変化する世界。豊かさの本質とウエルビーイングに向かい、私たちそれぞれが、真剣に意識の変容と対峙する時が訪れている。この新たなリアリティーの幕開けのとき、都市の水辺が果たす役割とは何か。都市の特定の機能に目を向け、物理的インフラを整え、マスを想定した経済と文化を創出するための水辺の再生ではない、試練の先に現れる真の都市の水辺のメタモルフォーゼとは。人間のメンタルの形成という視点で水辺の歴史に目を向けた時、創造性とアートというキーワードが浮かぶ。

水辺×アートが新たな都市の役割を担い、意識が宇宙へ向けて拡大した時、見えてくるアートが開く水辺の未来とは…。



陣内秀信
建築史家
法政大学特任教授



服部充代
空間デザイナー
アカシックリーダー
like air + water co. ltd.代表



四方幸子
キュレーター



清水陽子
アーティスト
サイエンティスト

時間 → 13:15-15:15

同時通訳 → 日・英

海外と日本の先進事例を語るゲストを迎えて、 セッションが始まります。

5月21日(金)

●オープニングディスカッション2

JAPICシンポジウム 中川運河水辺地区再生構想

政・官・学・産業界のメンバーが集い、大規模なインフラ・プロジェクトを提言するJAPIC(日本プロジェクト産業協議会)は、昨今のコロナ禍への対応、気候変動、DX等、新たな潮流も反映した「中川運河の再生構想」を提案したい。具体的には、名古屋駅から名古屋港への新たな基軸を形成しながら、中川運河を静謐な水辺空間を持つ気品と賑わいのある街にするため、①『水と緑の回廊空間』②『新旧が融合する職住遊環境』③『地理的特性を活かした交通環境』の3つの柱を基本理念に据えて、中川運河の沿岸整備の将来像をどう考えるのか?スピード感をもってこの提言を実現するためにはどうすればよいのか?を議論しながら、中川運河整備の気運の醸成につなげていきたい。

◎問題提起1



林 良嗣
中部大学卓越教授

◎問題提起2



堀場和夫
名古屋市副市長

◎コメンテーター



松尾直規
中部大学名誉教授

◎コーディネーター

藤本貴也 JAPIC国土・未来プロジェクト研究会委員長

◎パネラー **藤條 聰** 名古屋市住宅都市局長

川口英俊 東京都市大学教授

丸山隆英 元(一財)みなと総合研究財団専務理事

小川拓也 リンナイ(株)上席執行役員 経営企画本部長

松田寛志 JAPIC国土・未来プロジェクト研究会委員

時間 → 15:45 – 17:45

同時通訳 → 日・英

5月22日(土)

session 1 アート&クリエイティビティ

ニューヨークのソーホー、切尔西地区を見るとおり、アーティストの集積は街を変えていきます。オーストリアのリンツと横浜の取り組みから、いかに水辺にクリエイティブな人材を引き寄せるかについて議論します。

先進事例▶

リンツ(オーストリア)
BankART1929(横浜市)ほか

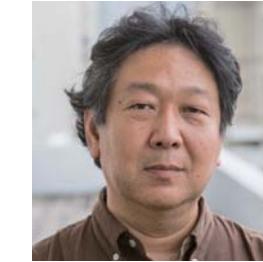
◎座長 **楳橋 修** 神戸大学大学院准教授、ティーハウス建築設計事務所主宰*

◎副座長 **五十嵐太郎** 東北大学大学院教授*

◎スピーカー



小川秀明
アルスエレクトロニカ・
フューチャーラボ共同代表



池田 修
NPO法人BankART1929代表



久野格彦
(株)三祐コンサルタンツ
代表取締役社長



トム・ヘネガン
建築家 元東京藝術大学教

時間 → 10:00 – 12:30

同時通訳 → 日・英

*世界運河会議NAGOYA2020企画委員

5月22日(土)

session 2 水辺から始まる都市戦略

世界の魅力的な都市には魅力的な水辺があります。中川運河をはじめとするNAGOYAの水辺をどのように活かすのか。今後の都市計画・都市戦略を議論します。

◎座長 中村晋一郎 名古屋大学大学院准教授*

◎副座長 川口暢子 愛知工業大学講師

◎スピーカー



リニオ・ブルットメッソ
建築家 都市デザイナー
元ヴェネチア水都国際センター所長



埴生雅章
アートハウスおやべ
アートプロデューサー



山本秀樹
(株)日建設計執行役員
名古屋代表



大野暁彦
名古屋市立大学大学院准教授



竹中克行
愛知県立大学教授

時間 → 13:15 – 15:45

同時通訳 → 日・英・イタリア

*世界運河会議NAGOYA2020企画委員

5月22日(土)

session 3 市民・企業が支える水辺マネジメント

水辺を活かすにはどのような仕組みが最適なのか、持続可能な水辺マネジメントについて議論を深めます。

先進事例▶

アムステルダム(オランダ)

天王洲アイル寺田倉庫(東京) ほか

◎座長 岩本唯史 (株)水辺総研代表取締役/RaasDESIGN代表*

◎副座長 村山顕人 東京大学大学院准教授*

◎ゲストスピーカー(アムステルダムから)



根津幸子
Urbanberry Design主宰



サシャ・グラセル
都市デザイナー 建築家



ロン・ファン・ホウスデン
都市デザイナー

◎スピーカー



和田 聰
(一社)天王洲・キャナルサイド活性化協会事務局長



小中達雄
玉野総合コンサルタント(株)
取締役常務執行役員
統括事業部長



沢田雅史
ミツカングループ
総務部課長待遇
統括事業部長



浦本五郎
ミツカン水の文化センター
センター長

時間 → 16:00 – 18:30

同時通訳 → 日・英

*世界運河会議NAGOYA2020企画委員

5月23日(日)

session4 ダイバーシティセッション(市民セッション)

水辺にかかる多様なプレイヤーが一堂に会し、忌憚なく意見を交わします。「私たちの運河へ～何をしたらよいのか～」。世界運河会議でのさまざまな議論を経て新たな一步を踏み出すために、課題や夢を語り合います。

◎全体統括



井澤知旦
名古屋学院大学教授

◎進行 メインファシリテーター



今永典秀
名古屋産業大学准教授

◎グループファシリテーター

稲葉久之
フリーランス・ファシリテーター

林 加代子
(株)ソーシャル・アクティ代表取締役

三田祐子
(株)対話計画取締役

◎テクニカルファシリテーター 日本ファシリテーション協会

亀井直人 **神田信治** **角谷裕司**

◎グラフィックレコーダー

松井 大 **肥後祐亮** **あるがゆう**

◎パネラー

元木敬文
中京テレビ放送(株)

内山志保
愛知大学

あいざわけいこ
デザインラボクロス

柳田哲雄
NPO法人伊勢湾フォーラム

浅井信好
月灯りの移動劇場 舞踏家

今井智景
Seainx project

木全純治
シネマスコール

塩澤彰規
富士コーヒー(株)

日栄一真
LIBERGRAPH

宇佐見孝
宇佐見合板(株)

川口暢子
水辺とまちの入口研究所

谷口晋介
谷口鋳工(株)

今枝 薫
東邦ガス(株)

樋口哲也
リンナイ(株)

鏡味栄男
中川区広見学区区政協力委員長

時間 → 10:00–12:00

*世界運河会議NAGOYA2020企画委員

5月23日(日)

session5 アーキセッション「みんなの運河」

市民よりのさまざまな意見を参考にした「みんなの運河」提案を、名古屋の新進気鋭の建築家である米澤隆がプレゼンテーションを行う。さらに水辺研究の第一人者と名古屋を代表する建築家を交えたパネルディスカッションにより、運河の「Nagoya Model」について話し合う。

◎プレゼンテーション **米澤 隆**

◎パネルディスカッション



米澤 隆
建築家
米澤隆建築事務所主宰



村上 心
堀山女学園大学教授



伊藤恭行
建築家
シーラカンスアンド
アソシエイツ代表



陣内秀信
建築史家
法政大学特任教授

時間 → 13:00–15:00

同時通訳 → 日・英

宣言起草委員会 | 企画委員によるディスカッション。

◎企画委員長 **秀島栄三** 名古屋工業大学大学院教授

五十嵐太郎 **岩本唯史** **櫻橋 修** **中村晋一郎**
福岡孝則 **村山顕人**

時間 → 13:00–15:00

統括・宣言 |

奥野信宏
世界運河会議NAGOYA2020実行委員長

秀島栄三
世界運河会議NAGOYA2020企画委員長

時間 → 15:00–16:00

同時通訳 → 日・英

timetable

	5月21日(金)	22日(土)	23日(日)
9:00	受付時間	受付時間	受付時間
10:00	10:00-10:45 オープニング 挨拶 国連地域開発センター 所長 遠藤和重 主旨説明 秀島栄三	10:00-12:30 session1 アート&クリエイティビティ 座長:榎橋 修 副座長:五十嵐太郎 小川秀明 池田 修 久野格彦 福岡孝則 岩本唯史 トム・ヘネガン	10:00-12:00 session4 ダイバーシティセッション (市民セッション) 全体統括:井澤知旦 進行:今永典秀 稻葉久之 三田祐子 林 加代子 亀井直人 神田信治 角谷裕司 松井 大 肥後祐亮 あるがゆう パネラー 水辺活動団体、市民、企業、 ARToC10参加アーティストなど
11:00	11:00-12:00 基調講演 カイ・ウーヴェ・バーグマン		
12:00			
13:00	13:15-15:15 オープニング ディスカッション1 「水辺のコスモロジー アート・意識・未来」 陣内秀信 服部充代 四方幸子 清水陽子	13:15-15:45 session2 水辺から始まる都市戦略 座長:中村晋一郎 副座長:川口暢子 リニオ・ブルットメツソ 埴生雅章 山本秀樹 大野暁彦 竹中克行	13:00-15:00 session5 アーキセッション「みんなの運河」 米澤 隆 村上 心 伊藤恭行 陣内秀信
14:00			宣言起草委員会 企画委員
15:00			15:00-16:00 総括会議・宣言
16:00	15:45-17:45 オープニング ディスカッション2 「JAPICシンポジウム 中川運河水辺地区 再生構想」 林 良嗣 堀場和夫 松尾直規 藤本貴也 藤條 聰 川口英俊 丸山隆英 小川拓也 松田寛志	16:00-18:30 session3 市民・企業が支える 水辺マネジメント 座長:岩本唯史 副座長:村山顕人 根津幸子 サシャ・グラセル ロン・ファン・ホウステン 和田本 聰 小中達雄 沢田雅史 浦本五郎 榎橋 修	
17:00			
18:00			
19:00			

世界運河会議NAGOYA2020 登壇者紹介

● 基調講演

カイ・ウーヴェ・バーグマン BIG (BJARKE INGELS GROUP) パートナー



BIGパートナー(共同経営者)。米国建築家協会フェロー(FAIA)。北米、ヨーロッパ、アジア、中東など世界でBIGのビジネス領域を展開。また都市計画的なプロジェクトやランドスケープなども統括。最近ではNYマンハッタンのBIG-U計画を担当している。本プロジェクトは2020年の第一期(約4km)の着工予定である。またブルックリンクイーンズパーク、スマソニアンマスター・プラン、マイアミビーチスクエアなど多数のプロジェクトを統括している。

● オープニングディスカッション1

陣内秀信

建築史家
法政大学特任教授



1947年福岡県生まれ。1973年から1975年にかけてイタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学。帰国後1983年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。法政大学工学部建築学科教授。2018年2月退官。専門はイタリア建築・都市史。ヴェネツィアとの比較から江戸・(戦前の)東京が水の都であったことなどを論じた『東京の空間人類学』でサントリー学芸賞(社会・風俗部門)を受賞。

服部充代

空間デザイナー
アカシックリーダー
like air + water co. ltd.代表



デザイナーとしてNYに滞在した1990年代から2000年代初頭にかけ、NYの水辺がアートとクリエイティビティで変化する現実を目の当たりにする。以来、帰国後も都市の水辺が人に与える豊かさの本質を問い合わせ続けている。2014、15年には、陣内秀信氏の元、米国北東部の水都調査研究に参加。一般社団法人中川運河キャナルアート、アドバイザリー。

四方幸子

キュレーター



キュレーター。多摩美術大学・東京造形大学客員教授、IAMAS・武蔵野美術大学非常勤講師。オープン・ウォーター実行委員会ディレクター。デジタル／アナログを超えて「情報の流れ」から領域横断的な活動を展開。キヤノン・アートラボ(1990-2001)、森美術館(2002-04)、NTT ICC(2004-10)と並行し、フリーで数多くのプロジェクトを実現。最近の仕事に美術評論家連盟2020年度シンポジウム(実行委員長)、オンライン・フェスMMFS2020(ディレクター)など。国内外の審査員を歴任。

清水陽子

アーティスト
サイエンティスト



科学と芸術を融合する作品をグローバルに研究、制作、発表。大学では生物学と化学を専攻。卒業後バイオテクノロジーなどの先端科学を用いた研究制作を行いながら、ギャラリー、ミュージアム、企業、行政と協業。現在、オーストリアのリンツ市におけるアルスエレクトロニカ・フューチャーラボのアーティスト兼リサーチャーとしても、グローバル企業や行政機関のクリエイティブなイノベーション・プロジェクトのマネジメントを行う。

● オープニングディスカッション2

林 良嗣

中部大学卓越教授



中部大学卓越教授、持続発展・スマートシティ国際研究センター長、名古屋大学名誉教授。ローマクラブ本部執行役員・日本支部長、世界交通学会前会長、日本工学アカデミー中部支部長などを務める。交通と土地利用・QOL・脱炭素研究の国際的リーダー。著書に『都市のクオリティストック』(鹿島出版会)など多数。

堀場和夫

名古屋市副市長



1978年、名古屋市計画局(現住宅都市局)に入庁し、都市計画、街路計画に携わる。その後、健康福祉局クオリティライフ21城北推進室長、緑政土木局参事(東山再生に係る総合調整担当)など、名古屋市の主要プロジェクト担当を歴任。総務局企画調整監、中村区長、消防長を経て、2017年6月より現職。

松尾直規

中部大学名誉教授



1975年に京都大学大学院工学研究科修了、1982年に工学博士を取得。1975年京都大学工学部助手、1981年中部工業大学講師、1982年中部工業大学助教授を経て、1992年～2020年まで中部大学工学部土木工学科教授。この間、中部大学工学部長、工学研究科長、学監を歴任し、現在は中部大学顧問、名誉教授。専門は河川、水環境で、堀川まちづくり協議会会長、中川運河再生推進会議議長などの各種社会貢献活動を実践。

●オープニングディスカッション2



藤本貴也

日本プロジェクト産業協議会
国土未来プロジェクト研究会
委員長
パシフィックコンサルタンツ
(株)特別顧問

大阪府出身。1972年建設省(当時)入省。中部地方建設局静岡国道工事事務所長、道路局企画課道路経済調査室長、関東地方建設局企画部長などを歴任。2004年近畿地方整備局長、06年国土地理院長。(社)建設コンサルタンツ協会副会長、(公財)日本道路情報センター副理事長を経て2018年より現職。日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)国土未来プロジェクト研究会委員長、大阪工業大学客員教授なども務めている。



藤條 聰

名古屋市住宅都市局長

1997年一橋大学経済学部卒業、同年建設省(現国土交通省)入省。中部地方整備局、土地・水資源局総務課長補佐等を経て、2006年から2009年まで外務省在フランス日本国大使館一等書記官としてフランスに勤務。帰国後、川越市都市計画部長、内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(総括担当)付企画官、国土交通省土地・建設産業局総務課企画官、同省大臣官房広報課広報企画官、同省土地・建設産業局建設市場整備課労働資材対策室長等を歴任し2020年7月より現職。



川口英俊

東京都市大学教授

Yale University/School of Architecture M.A.(建築修士)。Emilio Ambasz & Associates NY勤務を経て、(株)アーキテクト・キュー一級建築士事務所設立代表取締役・一級建築士。2009年より東京都市大学都市生活学部教授。専門は建築・都市デザイン。現在東京外濠/神田川/日本橋川再生構想研究を進行中。



丸山隆英

元(一財)みなと総合研究
財団専務理事
東亜建設工業(株)
執行役員常務

1985年北海道大学大学院修了後、運輸省入省。1998年から運輸省第五港湾建設局、2002年から国土交通省中部地方整備局において計3年4ヵ月間、中部地方の港湾・空港事業の計画・実施を担当。2017年に国土交通省中国地方整備局長を最後に退官以降、港湾の物流、環境に関する計画策定などを行う(一財)みなと総合研究財団に在籍し、中川運河を含めた名古屋港の賑わいに関する計画づくりにも携わる。2021年4月より現職。



小川拓也

リンナイ(株)上席執行役員
経営企画本部長

1990年リンナイに入社。経理、経営企画部門で実務を経験した後、2011年より広報部長、総務部長、人事部長を歴任し、2021年4月現職に至る。広報部時代には中川運河再生計画に沿って、主にアート活動の支援に参加。昨年からは世界運河会議実行委員会委員を務める。趣味はスポーツ観戦とゴルフ。三重県四日市市出身、現在は愛知県に在住。



松田寛志

日本プロジェクト産業協議会
国土未来プロジェクト
研究会委員
日本工営株式会社
執行役員
事業戦略本部長

1985年日本工営に入社。河川事業を中心に実務経験した後、2015年より国内コンサルタント事業全般の技術戦略を担当。2020年7月からは全社の革新技術開発や人材育成を担う現職に至る。また、2015年からJAPICの国土・未来プロジェクト研究会に参画し、「次世代活性化プロジェクト BEYOND 2020」:2017年2月において「名古屋新都心～中川運河の水辺空間整備～」を担当。長野県飯田市出身。

●session 1



小川秀明

アルスエレクトロニカ・
フューチャーラボ共同代表

2007年にオーストリア・リントに移住。Ars Electronicaのアーティスト、キュレーター、リサーチャーとして活動。2009年にオープンした新Ars Electronica Centerの立ち上げ、企画展・イベントのディレクションをはじめとした国際プロジェクトを手がける一方で、アート・テクノロジー・社会を刺激する「触媒的」アートプロジェクトの制作、研究開発、企業・行政へのコンサルティングを数多く手がける。アーティスト・グループh.o(エイチドットオー)の主宰や、リント芸術大学で教鞭をとるなど、最先端テクノロジーと表現を結びつけ、その社会活用まで幅広く活動を展開している。



池田 修

BankART1929代表

大阪生まれ。都市に棲むことをテーマに美術と建築を横断するチーム、PHスタジオのメンバーとして、多岐にわたる活動を行う。代表作はダム湖に沈む町でのプロジェクト「船、山にのぼる」。また代官山ヒルサイドギャラリーディレクター(1986~91)等、コーディネータとしての実践も長い。2004年からBankART1929の立ち上げと企画運営に携わり、展覧会、スクール、出版、アーティスト誘致など、都市に関わる様々な仕事を継続している。



久野格彦

(株)三祐コンサルタンツ
代表取締役社長

1979年日本大学芸術学部文芸学科卒業。1985年米国カリフォルニア州ペバーダイン大学コミュニケーション学部放送広告学科卒業。1985年米国カリフォルニア州ユナイティッドテレビ放送網勤務。1986年株式会社三祐コンサルタンツ入社、現在に至る。



トム・ヘネガン

建築家
元東京藝術大学教授

芝浦工業大学工学部建築学科教授。シドニー大学建築学科長、東京藝術大学建築学科教授を歴任。ロンドンのAAスクールを卒業後、1976年から1990年までユニットマスターとして教鞭。南日本の公共プロジェクトの設計を依頼された後、東京事務所を開設。このプロジェクトにより、1994年に日本建築学会「学会賞」を受賞。2002年の「フォレストパークあだたら」では日本政府の公共建築賞を受賞。1996年のミラノ・トリエンナーレでは日本館、2008年のヴェネチア・ビエンナーレではオーストラリア館に作品が展示。

● session 2



リニオ・ブルットメツソ

建築家
都市デザイナー

イタリアベネチア在住。RETE - 港湾と都市のコラボレーションのための国際協会(イタリア・ヴェネツィア)の創設者(2001年)および前会長(2017-2020年)。イタリア・ベニスIUAV大学建築学部都市デザイン学科元助教授。ヴェネツィアの水都国際センター(Città d'Acqua)の元ディレクター(1989-2013年)。ウォーターフロントの再開発や港と都市の関係についての著書多数。



埴生雅章

アートハウスおやべ
アートプロデューサー

1973~2008年富山県職員(造園職)として勤務。都市計画課長、土木部長等を務める。この間、長年にわたり富岩運河環水公園の計画と事業に携わる。2008~2015年(公財)富山県民福祉公園副理事長。環水公園の運営に関わる。現在、『アートハウスおやべ』(小矢部市の美術館)のアートプロデューサー



山本秀樹

(株)日建設計
執行役員名古屋代表

1989年、九州大学大学院修士課程修了。総合建設会社を経て、2000年日建設計入社。「飯田町アイガーデン・エア」、「ミッドランドスクエア」、「東京スカイツリー」など建築・土木一体型の大規模複合開発プロジェクトにおける企画・都市計画・プロジェクトマネジメント業務を担当。2010年に名古屋オフィスに異動し、「名古屋駅周辺まちづくり構想」など行政の上位計画・構想の策定や民間の開発計画を数多く手掛ける。



大野暁彦

名古屋市立大学大学院
准教授
(株)エスエフジー・
ランドスケープ
アーキテクツ代表取締役

登録ランドスケープアーキテクト。国内外の庭から建築・土木・都市空間まで幅広く関わる。2009年千葉大学大学院園芸学研究科修了後、文化庁新進芸術家派遣制度にてオランダで実務経験後、千葉大学大学院園芸学研究科にて博士(農学)取得。2015年より中央大学助教着任と同時に設計事務所エスエフジーを設立。2017年より名古屋市立大学大学院芸術工学研究科講師。2021年より准教授。プロジェクトは、国土交通大臣賞、グッドデザイン賞、国際ライティングデザインアワードなど数々の賞を受賞。著作に『日本の美しい庭園図鑑』『世界の美しい庭園図鑑』(共著・エクスナレッジ)『人と世界との間をつなぐインターラクションデザイン』(共著・岐阜新聞社)ほか。



竹中克行

愛知県立大学教授

地理学者、博士(学術、東京大学)。地中海ヨーロッパの都市とランドスケープに関する研究を下敷きに理論を着想し、都市コミュニケーション研究所を立ち上げて日本国内の応用的な都市研究を手がける。主な著書に、『地中海都市一人と都市のコミュニケーション』(2021年、東京大学出版会)、『空間コードから共創する中川運河―「らしさ」のある都市づくり』(鹿島出版会、2016年、編著)など。



川口暢子

愛知工業大学講師

専門は、都市計画・緑地計画(都市域の緑地管理)。持続可能なオープンスペース・緑地の利用や管理をテーマとした研究を行うとともに、まちづくりの視点から水辺と人の関わりを促進する活動を行う。名古屋大学大学院博士後期課程修了後、同研究員、建設コンサルタントを経て、2021年より工学部土木工学科講師。水辺とまちの入口研究所所属。著書:『空間コードから共創する中川運河―「らしさ」のある都市づくり』(共著)他。博士(工学)。

● session 3



根津幸子
Urbanberry Design主宰

東京都市大学建築学大学院修了後、オランダ政府奨学生としてベルラーヘ・インスティチュートで建築都市デザインを学ぶ。2002年よりアムステルダムを拠点にUrbanberry Design主宰。オランダで活発なサーキュラーエコノミーを市民、建築家として体験しつつ、オランダと日本で設計やまちづくりに落とし込み活動中。アムステルダムのボトムアップな街づくりに関する書籍を2021年出版予定。



サシャ・グラセル
都市デザイナー
建築家

2007年RWTHアーヘン卒業。2009年Space&Matter共同設立。建築における循環エリア開発とヴィジョンづくりを専門とする。DeCeuvelやSWEETshotelの循環型プロジェクトを開発し、Schoonschipのスマートな都市計画の策定の主導的な役割を果たす。循環プロセスを建築から地域や都市にスケールアップするためステークホルダーと統合された生態系の構築に携わる。



ロン・ファン・ハウステン
アムステルダムの建築学院(Academie van bouwkunst)で教育を受けた都市デザイナー。現在アムステルダム市のリードアーバンデザイナーであり、複雑な都市改造プロジェクトを専門としている。主要なプロジェクトは、アイ川北岸に位置するブラウンフィールドを再生したバウクスローテルハム、NDSMウェルフ、ハーメルクオティアなど。妻と子供と一緒に美しい島であるアイブルグに住み、サイクリストであり画家でもある。



和田本 聰
(一社)天王洲・
キャナルサイド活性化協会
事務局長

2012年に寺田倉庫に入社し、天王洲アイルでの同社の建築プロジェクトに参画する。2015年より活動を開始した協会の運営に当初から携わり、天王洲キャナルフェス、天王洲アートフェスティバル、キャナルアートモーメント等のイベントの実施責任者として全体企画、行政・地域との調整を行い、水辺の利活用、プロジェクトマッピング、アートを活用した地域活性化に取り組んでいる。



小中達雄
玉野総合コンサルタント(株)
取締役常務執行役員
統括事業部長

都市計画コンサルタント。都市整備事業(主に土地区画整理事業)の事業調査(基礎調査、プランニング、事業計画作成等)事業化推進、事業の経営改善等に携わってきた。30年ほど前から「住民参加のまちづくり」をテーマに事業化支援を行ってきた。土木学会会員、日本都市計画学会会員。技術士(建設部門)、土地区画整理士。



沢田雅史
ミツカングループ総務部
課長待遇

名古屋大学文学部哲学科卒。1988年ミツカングループ入社。営業・宣伝・商品開発・役員室・広報等を担当。2013年から、ミツカンの本社がある愛知県半田市にMIZKAN MUSEUM(愛称:MIM)を建築するプロジェクトを推進し、2015年オープン。現在は総務部に籍を置き、半田市内小中学校への出前授業・お酢やおしを生かしたエリア活性化等の行政と連動した地元貢献、各地での講演や授業を通じてのミツカンファンづくりを担当。



浦本五郎
ミツカン水の文化センター
センター長

静岡県立大学卒業。1992年中埜酢店(ミツカングループ)入社。営業企画、マーケティング、新規事業開発、広報等の部門を経験し、2018年よりミツカン水の文化センターセンター長。ミツカン水の文化センターでは、人と水とのかかわりによって生み出されてきた生活様式を「水の文化」と捉え、さまざまな研究、情報交流活動を通じて、水の大切さを伝え、水への意識向上を図っている。

● session 4



井澤知旦
名古屋学院大学教授

大阪市生まれ。名古屋工業大学大学院工学研究科修了。博士(工学)、技術士(建設部門)、一级建築士。民間シンクタンク入所後、1990年(株)都市研究所スペーシア設立、代表取締役就任。2012年名古屋学院大学経済学部教授、2015年より現代社会学部教授となり、2017~20年度同学部長を経て現在に至る。地域にストックされた空間(公共空間等)や時間(歴史)、人間(人材)のシェアリングにより地域を活性化する新しいコミュニケーションづくりに取り組んでいる。



今永典秀
名古屋産業大学准教授

岐阜大学博士(工学)。名古屋大学経済学部卒業後、住友信託銀行、東和不動産、ボランティアで社会人と学生が協働する団体「NAGOYA×FOREVER」を設立運営する。その後、国立大学法人岐阜大学地域協学センター、2019年4月より名古屋産業大学で、専門職大学を活用した新しい学科の経営専門職学科の立ち上げに関与する。現代ビジネス学部経営専門職学科准教授。著書に『企業のためのインターンシップ実施マニュアル』(共著、日本能率協会マネジメントセンター、2021)がある。



稻葉久之
フリーランス・
ファシリテーター

大阪府生まれ。名古屋在住。修士(教育ファシリテーション)。青年海外協力隊、国際協力NGOとしてアフリカでコミュニティ開発や保健医療プロジェクトに従事。帰国後、国内のまちづくりNPOを経て独立。まちづくりや地方創生などのワークショップの企画運営、企業でのファシリテーション研修等を行っている。愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋外國語大学、日本福祉大学非常勤講師。名古屋市立大学研究員。



林 加代子
(株)ソーシャル・アクティ
代表取締役

トヨタ自動車工業を退社後、子育てしながら地域活動に携わり、女性の地域社会、ビジネス社会への参画、家庭と地域の絆を強めることの必要性を感じ、大学院へ。地域社会での経験を体系化し、ファシリテーションの活用場面を研究。研究を活かして起業。現在、株式会社ソーシャル・アクティ代表取締役、愛知学泉大学非常勤講師、名古屋工業大学実務型教員。著書に『多様な市民とつくる合意』など。



三田祐子
(株)対話計画取締役

土木技術者として都市計画に携わるなか、「まちは人の営みがあることで生き生きとする」との思いから市民との対話の場へと関わりはじめる。現在は、「中川運河宝探しin Factory」はじめ市民会議のファシリテーター、土木設計を行う。他に特定非営利活動法人プラスまちづくり代表、特定非営利活動法人ひとにやさしいまちづくりネットワーク・東海の理事などを務めている。行ってみたい運河はキール運河。



松井 大
グラフィック・レコーダー

名古屋市出身。自動車部品の設計・生産準備の機械設計エンジニアとして勤務しながら、2015年よりグラフィック・レコーダーとして活動。行政プロジェクトや企業内の事業創出・ビジョン策定ワークショップ、まちづくり系カンファレンス等の場でビジュアル・ファシリテーションやグラフィック・レコーディングを実践している。



肥後祐亮
グラフィック・レコーダー

幼少期から好奇心旺盛で、多動な特性をもっている。自分の脳内のあふれる情報を紙の上に描き出し「見える化」することで、生きやすくなる経験が人生を変える。京都を拠点に300以上現場を積み、会議や話し合いの場、学びを参加者全員で紡いでいく際に有効な「ファシリテーション」×「見える化」の技術を実践、探求している。自らを実験台に個人変革、組織変革を学び、よりよい生き方を探求している。



あるがゆう
グラフィック・レコーダー

個人事業でグラフィックファシリテーターをしつつ、都内のIT企業にて新規事業部に従事。小学2年生から意識的に始めた「描く」。きっかけは、自身の解釈や理解への不安。今の原動力は、相手や世界の「分からなさ」とそれを「知る」こと。#等身大 #あるがまま
追伸:好きが講じてピアソムリエの資格を取得!

● session 5



米澤 隆
建築家
米澤隆建築事務所主宰

京都府生まれ。2014年名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。受賞にSDReview2008・2014・2015 入選、京都デザイン賞、JCDデザインアワード2012 金賞、THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARD 2013、日本建築学会作品選集新人賞2015、第14回キッズデザイン賞、グッドデザイン賞2020など多数。大同大学准教授、名古屋市景観アドバイザー



村上 心
樅山女学園大学教授

東京大学工学部建築学科卒、同大学院工学系研究科修了。研究科在学中に(財)日本経済研究所、住環境研究所などの客員研究员を経て、1987年M&M Company 設立、1992年東京大学大学院博士課程満了、樅山女学園大学講師。助教授・准教授を経て2007年教授。1997年TU Delft OBOM研究所客員研究员。2011年より遼寧工程技術大学客員教授。2018-樅山女学園大学大学院生活科学研究科長。建築学者。写真家。ハイパースペースクリエータ。博士(工学)。



伊藤恭行
建築家
シーラカンスアンド
アソシエイツ代表

建築家(一级建築士) / シーラカンスアンドアソシエイツ代表取締役 / 名古屋市立大学教授 / 東京大学大学院修了、博士(工学) / 日本建築学会作品選奨(1996, 2011, 2014, 2015) / JIA優秀建築賞(2014) / INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWORD (2014, 2015) / 木材活用コンクール林野庁長官賞(2013) / 中部建築賞、三重県建築賞、富山県建築賞など受賞多数。

陣内秀信

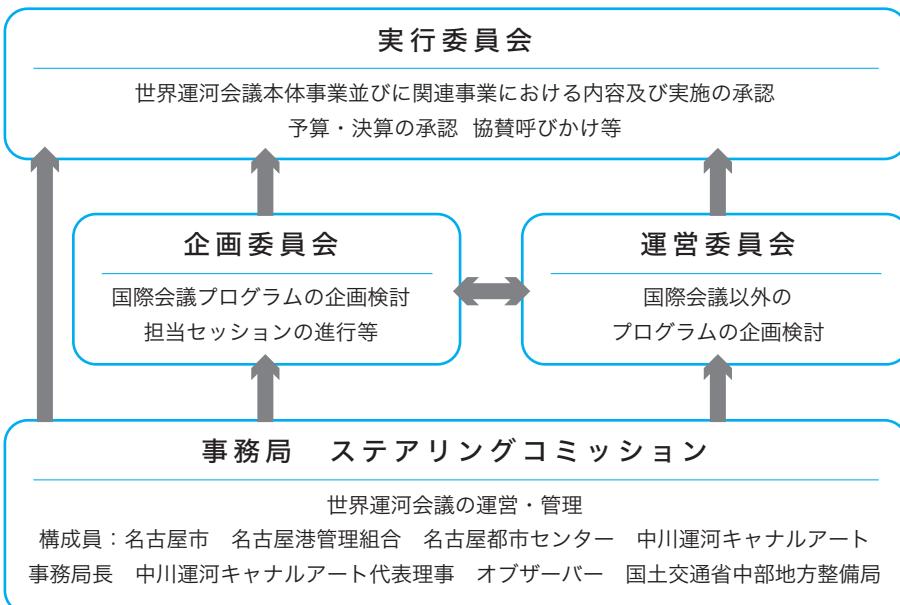
p17オープニングディスカッション1 参照

運営組織

【実行委員会】

名誉実行委員長	●水野明久	中部電力株式会社相談役
実行委員長	●奥野信宏	公益財団法人名古屋まちづくり公社上席顧問 名古屋都市センター長
実行委員	●浅井慶一郎 ●伊藤恭行 ●小川拓也 ●小川正樹 ●佐藤久美 ●清水 浩 ●田中 豊 ●藤條 聰 ●秀島栄三 ●藤田 亨 ●松尾直規 ●松林正之 ●丸川裕之 ●水尾衣里	公益財団法人名古屋まちづくり公社常務理事 建築家 シーラカンスアンドアソシエイツ代表 リンナイ株式会社上席執行役員 経営企画本部長 一般社団法人中部経済連合会専務理事 名古屋国際工科専門職大学教授 名古屋港管理組合建設部総合開担当部長 名古屋商工会議所常務理事・事務局長 名古屋市住宅都市局長 名古屋工業大学大学院教授 国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所長 中部大学名誉教授 一般社団法人中川運河キャナルアート監事 一般社団法人日本プロジェクト産業協議会専務理事 名城大学教授
監事	●長尾幸展	税理士
事務局	●藤澤 徹	一般社団法人中川運河キャナルアート
コーディネーター	●村上 心	堀山女学園大学教授
アドバイザー	●トム・ヘネガン ●陣内秀信	建築家 元東京芸術大学教授 法政大学特任教授

運営組織図



【企画委員】

秀島栄三 委員長
名古屋工業大学大学院
工学科教授
1992年京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了、1996年博士(工学)取得、1998年名古屋工業大学講師、2012年から現職。社会基盤整備計画のあり方を研究し、中川運河再生計画や堀川まちづくり構想の策定、中川運河、堀川、名古屋港の水辺活用、水上交通の推進、事業審査に携わってきた。他に愛知県、名古屋市等の都市計画審議会の会長・委員、特定非営利活動法人レスキュー・ストックヤードの理事などを務めている。著書に『環境計画－制度・政策・マネジメント』『土木と景観－風景のためのデザインとマネジメント』などがある。

五十嵐太郎
東北大学大学院教授

建築史・建築批評家。1992年、東京大学大学院修士課程修了。博士(工学)。現在、東北大学大学院教授。いちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッショナー、「インポッシブル・アーキテクチャー」窓展:窓をめぐるアートと建築の旅〈現在、開催中〉の監修を務める。第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018年日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞。『モダニズム崩壊後の建築—1968年以降の転回と思想』(青土社)ほか著書多数。

岩本唯史
株式会社水辺総研
代表取締役
RaasDESIGN代表
ミズベリングプロジェクト
ディレクター
水辺荘共同発起

建築家。一級建築士。国交省のミズベリングプロジェクトのディレクターを務めるほか、全国の水辺の魅力を創出する活動を行い、墨田区、竹芝、豊田市、和歌山市などの開発案件の水辺、エリアマネジメント組織などの水辺利活用のコンサルテーションを行う。横浜の水辺を使いこなすための会員組織、「水辺荘」の設立に参加。東京建築士会これまでの建築士賞受賞(2017)、まちなか広場賞受賞(2017)、グッドデザイン賞(ミズベリング、2018)。

梶橋 修
神戸大学大学院工学研究科
建築学専攻准教授
ティーハウス建築設計事務所
主宰

建築家として数多くの店舗や住宅の設計を手がける。2011年に発生した東日本大震災以降は、甚大な被害を受けたまちに対して、建築の視点からできることを模索しながら支援活動を継続している。2014年東日本大震災復興支援「失われた街」模型復元プロジェクトが第40回放送文化基金賞受賞(NHK盛岡放送局と共同受賞)。主な作品に「氷見朝日山公園」(2015-2017)、「Book Farm 神戸市立北神図書館」(2019)など。2017年より神戸大学減災デザインセンター副センター長。

中村晋一郎
名古屋大学大学院
工学科土木工学専攻
准教授

水の視点から国内外の都市や地域をフィールドに持続可能な国土形成に関する教育・研究を行っている。1982年宮崎県都城市生まれ。東京大学大学院修士課程修了後、民間建設コンサルタント、東京大学 特任助教、名古屋大学 専任講師などを経て、2018年11月より現職。そのほか市民団体「善福寺川を里川にカエル会(通称:善福蛙)」共同代表等を務め、水辺や健全な水循環の再生に向けた実践を行っている。専門は国土デザイン学、水文学、水資源学、博士(工学)。

福岡孝則
東京農業大学
地域環境科学部
造園科学科准教授
Fd Landscape主宰

ベンシルバニア大学芸術系大学院ランドスケープ専攻修了後、米国・ドイツのコンサルタント、神戸大学 持続的住環境創成講座特命准教授を経て、2017年4月より現職。作品にコートヤードHIROO(グッドデザイン賞)、南町田グランベリーパークほか、編著に『海外で建築仕事をする2都市・ランドスケープ編』、『Liveable City(住みやすい都市)をつくる』、共著に『決定版! グリーンインフラ』など。

村山顕人
東京大学大学院工学系
研究科都市工学専攻
准教授・博士(工学)

2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。東京大学国際都市再生研究センター特任研究員を経て、2006年10月から2014年3月まで名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻助教授・准教授。2014年4月から現職。専門は、都市計画、(公共政策としての)都市デザイン、まちづくり。その中でも特に、環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法(方法と技術)に焦点を当てている。近共著に『都市計画学:変化に対応するプランニング』(学芸出版社、2018年)など。